

# 高木和子教授 略歴 主要著書・論文目録

## 略 歴

## 学 歴

- 1964（昭和39）年 3月 東京教育大学教育学部心理学科卒業  
1969（昭和44）年 4月 東京教育大学大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程入学  
1971（昭和46）年 3月 東京教育大学大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程修了  
1971（昭和46）年 4月 東京教育大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程入学  
1974（昭和49）年 3月 東京教育大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程  
単位取得満期退学  
1983（昭和58）年 1月 教育学博士（筑波大学）

## 職 歴

- 1964（昭和39）年 4月 財団法人野間教育研究所嘱託  
1965（昭和40）年 4月 財団法人野間教育研究所助手  
1972（昭和47）年 4月 東京成徳短期大学幼児教育科常勤講師  
1975（昭和50）年 7月 山形大学教育学部家庭科講師  
1980（昭和55）年 4月 山形大学教育学部家庭科助教授  
1990（平成 2）年 4月 立命館大学文学部心理学専攻教授

## 主要著書・論文目録

## 著 書

- 『小学一年生の心理 幼児から児童へ』2000, 大日本図書  
『小学二年生の心理 なじんだランドセル』2000, 大日本図書  
『雨あめ降れふれ ぼくらの蜂ヶ岡の子どもやもん』2002, かもがわ出版

## 書籍の分担執筆

- 『現代の読書心理学』1971, 読書力の発達段階, 金子書房  
『文学教材における言語と思考』1974, 物語文における思考の性質, 明治図書  
『児童心理学の進歩 1977年版』1977, 第8章 読み, 金子書房  
『教授学習の心理学』1978, 9章 家庭科, 図書文化  
『野間教育研究所紀要 第31集 読書興味の研究』1980, 第3章 物語絵本に対する興味について

て—実証的研究, 講談社

『実践教育心理学 3 授業の心理』1981, 5章-9 家庭科, 教育出版

『乳幼児心理学を学ぶ』1981, 5 人と話ができるようになるまで—言語の発達, 有斐閣

『児童心理学の進歩 1984年版』1982, 第7章 児童文学—子どもの物語経験, 金子書房

『学習心理学』1985, 第8章 知識の獲得と理解, 福村出版

『子どもの言語心理 2 幼児のことば』1987, 幼児期の物語経験, 大日本図書

『家政学シリーズ 5 子どもの発達と家庭生活』1988, 3章 子どもの発達と家庭教育, 朝倉書店

『心理学フロンティア—心の不思議にせまる』1992, 子どもの邪気の正体は?, 教育出版

『講座 幼児の生活と教育 3 個性と感情の発達』1994, 個性のあらわれ—三歳児から五歳児まで, 岩波書店

『シンポジウム「学校教育の心理学」』1998, 一人ひとりに焦点をあてた「授業」における学びの構造—集団の中での自立の視点から, 川島書店

#### 博士論文

幼児の物語理解における継時的情報処理能力の役割, 1984, 博士論文, 筑波大学

#### 原著論文

回帰成就値による読書不振児の研究, 1968, 読書科学 vol.11 1-15, 日本読書学会, 共著

児童のシンタックス機能の発達—実験文再生法による分析—, 1968, 東京成徳短期大学紀要 No.7 17-31, 東京成徳短期大学, 単著

読みの指導への心理言語学的接近 (I) —入門期におけるシンタックス能力の個人差測定を試み—, 1972, 読書科学 vol.15 87-95, 日本読書学会, 単著

絵本のおもしろさの分析—内容の分析と読みきかせ中の反応を中心として—, 1974, 読書科学 vol.17 81-93, 日本読書学会, 共著

絵本の読みきかせに関する研究 (1) —くり返しよみきかせによる分析, 1975, 読書科学 vol.18 105-113, 日本読書学会, 共著

幼児における継時的情報処理能力の発達—Temporal Order Memoryについて—, 1977, 山形大学紀要 教育科学 vol.6 549-558, 山形大学, 単著

絵本の読みきかせに関する研究 (2) —おはなし作りに及ぼす読みきかせの効果の検討, 1977, 読書科学 vol.20 105-111, 日本読書学会, 共著

物語スキーマの形成における幼児むけ物語りのもつ、くり返し構造の役割, 1978, 山形大学紀要 教育科学 vol.7(1) 83-107, 山形大学, 単著

配列教示理解における教示文の継時的特性の役割—認知的枠組みの成立との関連において—, 1978, 教育心理学研究 vol.26(2) 10-18, 日本教育心理学会, 単著

- 物語の理解・記憶における認知的枠組み形成の役割, 1979, 教育心理学研究 vol.27(1) 18-26, 日本教育心理学会, 共著
- 記憶過程の発達に及ぼす要因の検討—継時的順序操作の役割を中心として—, 1979, 山形大学紀要 教育科学 vol.7(2) 305-322, 山形大学, 単著
- 幼児の物語理解におよぼす先行情報の質的効果, 1979, 教育心理学研究 vol.27(4) 238-244, 日本教育心理学会, 共著
- 幼児の物語理解におよぼすメディア特性の影響—テレビ視聴による物語理解を中心として—, 1979, 読書科学 vol.22 1-9, 日本読書学会, 単著
- 物語の理解・記憶過程における予測の役割, 1979, 読書科学 vol.22 69-78, 日本読書学会, 共著
- Interests in Picture Books of Japanese Five Years olds., 1980, Reading Teacher vol.33(4) 442-444, I. R. A, 単著
- 幼児の物語構成理解に及ぼす継時的情報処理能力の効果, 1980, 山形大学紀要 教育科学 vol.7(3) 427-440, 山形大学, 単著
- 情報理解のメカニズムとその発達, 1980, 心理学評論 vol.23(1) 37-55, 心理学評論刊行会, 共著
- 物語理解におけるFrameおよびSetting情報の役割, 1980, 教育心理学研究 vol.28(3) 239-245, 日本教育心理学会, 共著
- 知識の獲得をめぐる, 1981, サイコロジー No.2(4) 32-39, サイエンス社, 単著
- 子どもの発達と注意, 1983, 心理学評論 vol.26(3) 229-244, 心理学評論刊行会, 単著
- 幼児の絵画ストーリー構成における情報の統合化, 1983, 山形大学紀要 教育科学 vol.8(2) 109-128, 山形大学, 単著
- 保育領域の家庭科教育指導内容, 1984, 家庭科教育 vol.58(9) 167-177, 家政教育社, 共著
- 幼児における物語の客観的理解のための認知的統制—TOPT成績との関連による検討—, 1987, 山形大学紀要 教育科学 vol.9(2) 319-331, 山形大学, 単著
- 幼児の生活における記憶にもとづく行動の個人差—小麦粉粘土作りの再生教示場面をとおしての分析—, 1990, 立命館文学 vol.525 203-223, 立命館大学人文学会, 単著
- 生涯発達における学びの多様性と個性化の過程—プロジェクトⅢ研究の枠組み作りにむけて—, 1993, 立命館教育科学研究 vol.3 1-13, 立命館大学教育科学研究所, 単著
- 課題遂行時における行動統制の発達, 1994, 立命館教育科学研究 vol.4 77-85, 立命館大学教育科学研究所, 共著
- 個性化の過程としての生涯発達の視点から社会生活における「学び」をとらえる, 1995, 立命館教育科学プロジェクト研究シリーズⅢ 3-14, 立命館大学教育科学研究所, 単著
- 幼児の自発的な文字読みを通してみた継承的学びの始まり, 1995, 立命館教育科学プロジェクト研究シリーズⅢ 47-62, 立命館大学教育科学研究所, 単著

- 小学生の日常生活における学びの個人差—未習漢字語の熟知度評定の再分析を通して—, 1996, 立命館教育科学研究 vol.7 9-16, 立命館大学教育科学研究所, 単著
- 就学前児の文化的学習への参加の仕方とその個人差に関する検討—ひらがな文字はんこを用いた「思い出」作文の実践の記録をとおして—, 1997, 立命館大学教育科学研究 vol.9 123-141, 立命館大学教育科学研究所, 共著
- 就学前字の文化的学習への参加の場としての保育の組み立て—仲間との楽しい生活と学びの喜びを柱にした実践—, 1997, 立命館大学教育科学プロジェクト研究シリーズⅦ 3-14, 立命館大学教育科学研究所, 共著
- 就学前児が「書く」文章の産出過程の分析—ひらがな文字はんこを用いた「思い出」作文を材料として—, 1997, 立命館文学 vol.548 147-168, 立命館大学人文学会, 単著
- 「社会-認知的発達」という概念をめぐって—プロジェクト「社会と認知」: 幼児期・児童期の研究の背景—, 2000, 立命館教育科学プロジェクト研究シリーズXⅣ (AⅠ) 1-10, 立命館大学教育科学研究所, 単著
- 保育園児における本の借り出し行動—かな文字読字量とTOPT成績を認知的指標とした検討—, 2000, 立命館教育科学プロジェクト研究シリーズXⅣ (AⅠ) 31-38, 立命館大学教育科学研究所, 共著
- 生涯発達モデル構築への視点—「世話される／世話する」関係と世代交代—, 2000, 立命館人間科学研究 vol.14 41-52, 立命館大学人間科学研究所, 単著
- 発達心理学における現場研究の成立事例の検討—保育にごっこ遊びを積極的に導入することの効果研究を材料にして—, 2001, 立命館人間科学研究 vol.1 5-20, 立命館大学人間科学研究所, 共著
- 子育て支援をめぐる「支えあいの輪」の機能—子どもプロジェクトにおいて核となる概念の位置づけ—, 2004, 立命館人間科学研究 vol.7 3-12, 立命館大学人間科学研究所, 単著

## 小 論

- 心の健康をめざす本の選び方・読ませ方, 1970, 児童心理 24(7) 52-57, 金子書房
- 読書興味の開発—読書意欲と興味の伸ばし方—, 1972, 児童心理 26(12) 24-31, 金子書房
- 知的好奇心を伸ばす読書, 1973, 児童心理 27(8) 118-123, 金子書房
- 子どもの成長と読書, 1978, 児童心理 32(6) 1084-1091, 金子書房
- 表現力はどのように発達するのか, 1983, 教育心理 vol.31(10) 12-15, 日本文化科学社
- 絵本の読みきかせ—読む力を育てる幼児教育—, 1983, 児童心理 37(13) 2243-2249, 金子書房
- 文章理解の心理学, 1984, 言語生活 393 51-58, 筑摩書房
- 幼児への読みきかせの効用を考える, 1986, 児童心理 40(2) 117-112, 金子書房
- 幼児の集団生活における学びの広がり, 1986, 教育と医学 vol.34(4) 79-85, 慶応大学出版会

「読書のたのしみ」と「読書のよろこび」, 1997, 教育と医学 vol.1 35-40, 慶応大学出版会

4歳と5歳—大人との世界に自覚的に参加していく準備, 1997, 発達 No.18(70) 27-33, ミネルヴァ書房

ことばを育てる 心を育む, 2004, 子どもと学力 1年生 2004春・夏・秋・冬号, フォーラム・A,

ことばを育てる 学校をたのしい世界の入り口に, 2005, 子どもと学力 2年生 2005春・夏・秋・冬号, フォーラム・A

## 報告書

幼児期の認知発達および言語経験にかかわる調査項目 細目集, 1985, 昭和59年度文部省科学研究費 一般研究 (C) 課題番号59510044 「幼児期の認知発達の变化にかかわる言語経験の質の解析」, 代表研究者

保育園での仲間との活動が支えるひらがな文字読みの習得過程—習得の個人差を手がかりにして—「子どもの自発的な学習の社会的側面の解析—書きことばの自発的取得過程に焦点をあてて—」, 2000, 平成9-11年度科学研究費補助金基盤研究B(2) 研究成果報告書, 研究代表者